



KEICHIKU KAGURA

いざじょうかくらげんかい
稲童神楽保存会
inadoukagurahozenkai

稲童神楽保存会

行橋市
YUKUHASHI CITY



神楽講縁起

明治26年頃大分八幡神社の社家から教わったのが始まりとされています。昭和10年頃に戦争で一時中断しましたが、昭和40年頃に復活し現在に至っています。平成25年には「子供神楽塾」を発足し、後継者育成を図るとともに、各イベントや奉納神楽に出演しています。本社は安浦神社。

例年行われる奉納

時期：9月下旬頃
場所：安浦神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

もとながかくらげんかい
元永神楽保存会
motonagakurahozenkai

元永神楽保存会

行橋市
YUKUHASHI CITY



神楽講縁起

昭和32年、かつて行橋市にあった下正路神楽の講員が区の青年団に神楽を教えたのが始まりです。行橋市内外で神楽を奉納するなど盛んに活動しましたが、一時期中断となりました。平成9年神楽同好会として復活し、現在は他地域からの参加や女性の参加も可能で、自由な風風が特徴です。本社は須佐神社。

例年行われる奉納

時期：10月頃
場所：須佐神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

どうじょうじかくらこう
道場寺神楽講
douzoujikagurakou

道場寺神楽講

行橋市
YUKUHASHI CITY



神楽講縁起

明治7年に築上郡赤穂神楽から教えることにより伝承されたといわれます。昭和20年頃、戦争で講員が減少して存続が危ぶまれたため、女性に神楽が伝授された歴史を持っています。本社は英彦山の北方にあることからその名が付いたとも言われる北山神社。5月の春祭と10月の秋祭、元旦祭で神楽が奉納されます。

例年行われる奉納

時期：10月中旬
場所：北山神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

いまいかくらこう
今井神楽講
imakagurakou

今井神楽講

行橋市
YUKUHASHI CITY



神楽講縁起

今井神楽講として、小原神楽の指導も受けながら昭和13年に活動を始めました。その後幾度かの中断を経て、平成16年に復活を目指して研修会として再び発足し、神社の祭礼をはじめ竣工式、文化祭、敬老会等で積極的に奉納しています。本社は今井の氏神である熊野神社。

例年行われる奉納

時期：10月最終日曜日
場所：熊野神社
祭礼名：新嘗祭



KEICHIKU KAGURA

おむらかくらこう
大村神楽講
ohmurakagurakou

豊前市
BUZEN CITY

大村神楽講



神楽講縁起

明治10年頃、大富神社の神職から氏子に伝えられたのが始まりです。その後、140年以上欠かすことなく、豊前市内各所の鎮守の社で五穀豊穡を祝い喜びながら神楽を奉納し続けてきました。大晦日から元旦にかけての大富神社除夜祭では、隔年で湯立神楽を奉納しています。

例年行われる奉納

時期：①例年10月19日 ②例年2月3日
場所：①大富神社 ②湯立神社
祭礼名：①御供儀祭 ②節分祭



KEICHIKU KAGURA

くろつちかくらこう
黒土神楽講
kurotsuchikagurakou

豊前市
BUZEN CITY

黒土神楽講



神楽講縁起

明治7年に廃止になった旧豊前国の上毛郡の社家神楽が明治9年に伝承されたもので、18世紀初期以降の「岩戸神楽」の形態、演目が「式神楽」として大筋そのままの形で引き継がれています。現在、秋祭の際に、鎮守の社で「五穀豊穡」「無病息災」等を祈願し奉納し、子ども神楽も活発に活動しています。本社は石清水八幡神社。

例年行われる奉納

時期：10月第3土曜日
場所：石清水八幡神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

いwayかくらこう
岩屋神楽講
iwayakagurakou

豊前市
BUZEN CITY

岩屋神楽講



神楽講縁起

昭和3年の御大典記念行事を迎えるにあたり、岩屋地区でも神楽を奉納すべく岩屋神楽講を結成したのが始まりです。発足後、他地域の神楽団体とも積極的に交流を図り、絶えることなく舞われてきました。また、近郊の神楽の演目を取り入れるなど積極的に活動しています。本社は七社神社。

例年行われる奉納

時期：10月第3日曜日
場所：七社神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

やまうちかくらこう
山内神楽講
yamauchikagurakou

豊前市
BUZEN CITY

山内神楽講



神楽講縁起

縁起によると、約1100年前から嘯吹(うそぶき)八幡神社の初山家に伝承されてきたといわれています。明治期に神職から氏子へと受け継がれ、現在の形態を整えました。嘯吹八幡神社の春の大祭である清原神事では、湯立神楽が奉納されます。近年は、子ども神楽にも積極的に取り組んでいます。

例年行われる奉納

時期：例年10月13日
場所：嘯吹八幡神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

なかもらかくらげんかい
中村神楽保存会
nakamurakagurahozenkai

豊前市
BUZEN CITY

中村神楽保存会



神楽講縁起

江戸時代に社家神楽として奉納されていたといわれています。明治中期から神幸祭や秋祭に神楽を奉納していましたが、戦時中の混乱により、中断を余儀なくされました。昭和23年頃に有志により神楽講が結成され、昭和48年に現在の中村神楽保存会が発足しました。また、中村子ども神楽としても市内のイベントや文化祭などで神楽を披露し、一般市民に親しまれています。本社は角田八幡神社。

例年行われる奉納

時期：11月第4日曜日
場所：角田八幡神社
祭礼名：秋祭



豊前市
BUZEN CITY

三毛門神楽講

KEICHIKU KAGURA

みけかどかぐらこう
三毛門神楽講
mikekadokagurakou

豊前市
BUZEN CITY

三毛門神楽講

神楽講縁起

明治10年頃、神職の高橋氏の指導により発足されたとされています。伝承される鬼面の一つは、現存する豊前の神楽面で最も古いとされています。伝統を守りながらも、創作神楽を取り入れるなど、意欲的に神楽の発展に取り組んでいます。本社は春日神社。

例年行われる奉納

時期：12月第1土曜日
場所：春日神社
祭礼名：秋祭



KANDA
天神かぐら団

菊田町
KANDA TOWN

KEICHIKU KAGURA

かんたてんじんかぐらだん
KANDA天神かぐら団
kandatenjinkaguradan

KANDA
天神かぐら団

菊田町
KANDA TOWN

神楽講縁起

昭和54年、地元青年団を中心に綱引き神楽を舞ったのがきっかけで結成されました。翌年、面や衣装を借りて舞ったところ好評を得ました。以降、岩や蛇を自作し、「岩戸」や島根県の「石見神楽」をモデルにした「大蛇」も大変好評です。本社は菅原神社。

例年行われる奉納

時期：10月第3土曜日
場所：湯川水神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

みなんぶらかぐらこう
南原神楽講
minanburakagurakou

南原神楽講

菊田町
KANDA TOWN

神楽講縁起

昭和37年に神楽を奉納したのを最後に中断していましたが、平成15年に居谷神楽(みやこ町)の指導により復活。今では神社での奉納や地域の行事に参加するなど、地域の方々に愛されるよう活動に励んでいます。

後継者の育成にも励み、基本に忠実であることを心がけています。

京楽神楽イメージキャラクター「みさきくん」

例年行われる奉納



KEICHIKU KAGURA

かいりゅうのもり
海龍の杜
kairyunomori

海龍の杜
新津神楽社中

菊田町
KANDA TOWN

神楽講縁起

平成17年に新津地区の活性化を図るために、独学で神楽を始めました。大原八幡神社に残されていた面を使い、創作神楽として活動を進めるとともに、新津地区で明治時代に途絶えたといわれている獅子舞を取り入れ、新しい神楽として伝統を継承していくことを目指しています。本社は大原八幡神社。

例年行われる奉納

時期：4月最終日曜日の前日
場所：大原八幡神社
祭礼名：御神幸大祭奉納神楽



KEICHIKU KAGURA

よこせかぐらこう
横瀬神楽講
yokosekagurakou

みやこ町
MIYAKO TOWN

横瀬神楽講

神楽講縁起

赤幡神楽の流れをくむ神楽で、自然の恵みを願い「雨乞いには欠かせない」神楽としても親しまれています。戦後、一時期途絶えましたが地元の有志により復活。昭和50年に保存会が発足し、舞い手も観衆も楽しめる神楽を目指し、地域と共にある神楽として広く親しまれています。本社は若宮八幡神社。

例年行われる奉納

時期：①例年5月2日 ②例年5月3日
場所：①上木井公民館、下木井公民館で隔年で実施 ②横瀬公民館
祭礼名：①木井神社神幸祭 ②若宮八幡神社神幸祭



KEICHIKU KAGURA

かみらばらかぐらほぜんかい
上伊良原神楽保存会
kamiraharakagurahozenkai

みやこ町
MIYAKO TOWN

上伊良原神楽保存会

神楽講縁起

明治29年、当時の上伊良原村の中村集落の若者により赤幡流直伝とされる、松丸神楽(薬上町)を習得して、高木神社奏楽舎として発足したのが始まりで、記録に残る神楽としては町内最古。過疎化により講員が減少したため、保存会を結成し再出発。現在は活発な活動を続けています。本社は高木神社。

例年行われる奉納

時期：5月上旬
場所：上伊良原公民館
祭礼名：神幸祭



KEICHIKU KAGURA

みつどもほぜんかい
光富保存会
mitsudomihozenkai

みやこ町
MIYAKO TOWN

光富保存会

神楽講縁起

光富神楽は明治35年前後に、赤幡神楽を伝承して始まったとされています。途中、講員の減少により中断が2度ありましたが、昭和56年頃、有志により神楽保存会が結成されました。今では、本社である徳矢神社の春祭で奉納しているほか、様々なイベントに参加し、幅広く活動しています。

例年行われる奉納

時期：5月上旬
場所：徳矢神社
祭礼名：春祭



KEICHIKU KAGURA

かみたかやかぐらほぜんかい
上高屋神楽保存会
kamitakayakagurahozenkai

みやこ町
MIYAKO TOWN

上高屋神楽保存会

神楽講縁起

大正14年、盛持神楽(みやこ町)の出水氏から奏楽を習ったのが始まりとされ、昭和2年に上高屋神楽講が発足しました。戦争により、講員が減少しましたが、30年ほど前から小学生に神楽を伝授するようになり、平成5年には上高屋神楽保存会に改称しました。基本を忠実に守ることにより、伝統的な神楽を舞っています。本社は播八幡神社。

例年行われる奉納

時期：4月下旬
場所：上高屋公民館
祭礼名：神幸祭



KEICHIKU KAGURA

あぶみはたかぐらほぜんかい
鏡畑神楽保存会
abumihatagakurahozenkai

みやこ町
MIYAKO TOWN

鏡畑神楽保存会

神楽講縁起

大正12年、大山祇神社に新たな神輿が奉納されたのを機に、松丸神楽の中川氏を招いて習得したのが始まりです。戦中・戦後の2度中断しましたが、昭和55年鏡畑小学校の百周年の際、行事の一環として舞ったことをきっかけに、鏡畑神楽保存会が発足。激しい動きが特徴の舞となっています。

例年行われる奉納

時期：5月上旬
場所：鏡畑公民館
祭礼名：神幸祭



KEICHIKU KAGURA

つちやかぐらこ

土屋神楽講

tsuchiya-kagurakou

吉富町
YOSHITOMI TOWN

土屋神楽講

QRコード

神楽講縁起

築上郡史によると江戸・安政年間が起源とされており、豊前地方でも古くからの歴史を持つ神楽です。戦後一時途絶えましたが、平成に入り、元講員の指導のもと復興を成し遂げました。地元の霊神社、八幡古表神社のほか町内外での神楽奉納や、各施設等への慰問も積極的に行っています。また、神楽教室を開き後継者育成、継承にも努めています。

例年行われる奉納

時期：例年10月14日
場所：霊神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

よしとみかぐらこ

吉富神楽講

yoshitomikagurakou

吉富町
YOSHITOMI TOWN

吉富神楽講

QRコード

神楽講縁起

平成5年に地元の神楽好きの若者が集い、練習を開始し、平成11年に吉富神楽として旗揚げしました。京築神楽のなかでは最も新しい神楽講ですが、勇壮で見応えのある舞いを心がけ、日々修練を重ねています。観客に感動と思い出を残すことができるような神楽講を目指し、取組んでいます。

例年行われる奉納

時期：①10月第2土曜日②10月第3土曜日③10月第3日曜日
場所：①宇賀貴船神社②春日神社③八坂神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

とうばるかぐらこ

唐原神楽講

toubarukagurakou

上毛町
KOUGE TOWN

唐原神楽講

QRコード

神楽講縁起

明治30年代後半に「佐知の佐助」こと広沢松次郎氏を師匠として、下唐原貴船神社の氏子の若者により組織されました。現在は「唐原子供神楽」も結成し、貴船神社への奉納のほか、地域の行事でも精力的に活動しています。

例年行われる奉納

時期：11月下旬
場所：貴船神社(下唐原)
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

ともだかぐらこ

友枝神楽講

tomodakagurakou

上毛町
KOUGE TOWN

友枝神楽講

QRコード

神楽講縁起

明治20年頃、「佐知の佐助」こと広沢松次郎氏から上毛町の東上・八坂神社の氏子に伝えられたのが始まりです。現在は、吉富町や中津市まで活動の範囲を広げ、子ども神楽の指導をするなど、神楽の保存や後継者の育成に努めています。

例年行われる奉納

時期：11月上旬
場所：八社神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

なりつねかぐらこ

成恒神楽講

naritsunekagurakou

上毛町
KOUGE TOWN

成恒神楽講

QRコード

神楽講縁起

上毛町成恒には明治10年代から矢幡社家に伝わる神楽が存在したとされています。昭和10年頃まで舞われていましたが、後継者不足により中断。現在の神楽講は、昭和55年に地元有志により結成されたものです。成恒・吉富神社を本社とし、「御先」に代表される華やかで力強い舞が特徴です。

例年行われる奉納

時期：10月中旬
場所：吉富神社
祭礼名：秋祭



KEICHIKU KAGURA

あかばたかぐらほぞんかい

赤幡神楽保存会

akabatakagurahozonkai

築上町
CHIKUJO TOWN

赤幡神楽保存会

QRコード

神楽講縁起

鎌倉初期頃から明治初期まで旧築城郡十六社家の神官により神楽が舞われ、各神社の祭礼で奉納されていました。明治に入り、神職の神楽が禁じられたのを憂い(神職演舞禁止令)、神職が赤幡八幡神社の氏子に伝授を依頼したのが始まりです。伝統と格式を重んじた神楽です。

例年行われる奉納

時期：例年5月3日
場所：赤幡八幡神社
祭礼名：神幸祭



KEICHIKU KAGURA

いちぎばるかぐらこ

榎原神楽講

ichigibarakagurakou

築上町
CHIKUJO TOWN

榎原神楽講

QRコード

神楽講縁起

昭和29年に鬼の衣装と神楽面を寄贈されたのを契機に、厩谷神楽(みやこ町)から貴船神社の氏子に伝えられ、奉納されるようになったのが始まりです。子どもの頃に参加していた若い世代の勧誘にも努め、地域をあげて神楽の継承に努めています。

例年行われる奉納

時期：例年5月4日
場所：貴船神社
祭礼名：春祭



KEICHIKU KAGURA

いわまるかぐらこ

岩丸神楽講

iwamarukagurakou

築上町
CHIKUJO TOWN

岩丸神楽講

QRコード

神楽講縁起

岩丸神楽の起源は、一説には平安時代まで遡るとも伝えられています。戦時中、講員不足により中断しましたが、昭和21年に地元の青年が集まり、岩丸神楽講として復活し、アレンジを加えながら、見る人を驚かせることを優先した神楽が特徴です。

例年行われる奉納

時期：3月第1日曜日
場所：綱敷天満宮
祭礼名：梅祭



KEICHIKU KAGURA

おばらかぐらこ

小原神楽講

obarakagurakou

築上町
CHIKUJO TOWN

小原神楽講

QRコード

神楽講縁起

明治初期、岩戸見神社宮司より伝承され、代々受け継がれており、現在は地元の小学校の児童にも授業の一環として定期的に神楽を指導しています。小原神楽の囃子は多くの節回しと組み合わせを持っているのが特徴です。初代の舞い方からはぼん太に伝わっており、格調高いものとなっています。本社は小原正八幡神社。

例年行われる奉納

時期：①年始②例年4月29日③例年10月9日
場所：①綱敷天満宮②③小原正八幡神社
祭礼名：①元日祭②春の神幸祭③秋季大祭



CHIKUJO TOWN

寒田神楽講

KEICHIKU KAGURA

さむだかぐら講

寒田神楽講 sawadakagurakou



CHIKUJO TOWN

寒田神楽講

神楽講縁起

江戸時代の寛文5年(1665年)に神職が鎮火祭を始めたことが起源であるとされています。明治中期に岩戸見神社宮司により直伝され、一度も絶えることなく奉納されています。昔は舞い方、囃子方共に、世襲制により受け継がれていましたが、昭和43年、氏子であれば誰でも舞えるよう改められ、宮司らを中心に神楽講が発足しました。本社は山雲神社。

例年行われる奉納

時 期：①例年5月4・5日 ②例年10月19・20日
場 所：①②山雲神社
祭礼名：①春神奉納 ②秋神奉納



CHIKUJO TOWN

岩戸見神社
岩戸神楽
伝法寺保存会

KEICHIKU KAGURA

いわとみじんじわいわたかぐらでんぽうじほぞんかい

岩戸見神社岩戸神楽伝法寺保存会
iwatomijinjiwatokaguradenboujihozonkai



CHIKUJO TOWN

岩戸見神社
岩戸神楽
伝法寺保存会

神楽講縁起

明治維新後、当時、宮司だった熊谷氏が神官とともに氏子に神楽を伝授し、これが今日の築上町に伝わる神楽の礎となっています。伝法寺神楽は伝承して以来、中断することなく現在まで続いています。現在は、本社である岩戸見神社への奉納の他にも、要請があれば、各地の神社での奉納にも応じています。

例年行われる奉納

時 期：5月上旬
場 所：上城井地区
祭礼名：春神奉納



CHIKUJO TOWN

湊金富神楽保存会

KEICHIKU KAGURA

みなとくんとみかぐらほぞんかい

湊金富神楽保存会
minatokintomikagurahozonkai



CHIKUJO TOWN

湊金富神楽保存会

神楽講縁起

明治初期まで旧築城郡十六社家によって構成され、各神社で奉納されてきました。戦後、地元の青年団により復活し、若者が中心となって継承されてきました。奉納神楽のほか、町内各地のイベントにも積極的に参加しています。本社は金富神社。

例年行われる奉納

時 期：①7月第4土曜日 ②例年12月31日-1月1日
場 所：①②金富神社
祭礼名：①夏越祭(なごし) ②除夜祭・元旦祭